



あじけん通信

企画・編集 澁谷 健司・栗又 由利子



実習生寮から徒歩圏内にあり、今年も多くの実習生が初詣に訪れた須賀神社。

新年あけましておめでとうございます。令和8年が無事明けました。実習生の皆さんは、元日は授業がなかったので、日本で迎える新年を思い思いに過ごしていたようです。翌日1月2日から早速授業が再開され、教室からは元気な声が聞こえてきています。今年は午年。馬は活力や躍動の象徴とされており、「午年は力強く前進し、大いに飛躍する年」ともいわれています。

現在日本で技能実習生として活躍する外国人の皆さんが、安心・安全に生活でき、これまで以上に躍動し、大きく飛躍する1年間になるように、日本語講師・スタッフ一同、日本語学習、また寮生活をサポートして参りますので、本年も当校の教育活動へのご理解・ご協力、どうぞよろしくお願い致します。

あじけんスコープ Vol.147 ～ 栃木県警察本部からの感謝状授与のご報告～



感謝状を受ける当校代表の竹内（写真向って右）

昨年12月15日、栃木県警察本部刑事課より感謝状を授与されました。

今回の感謝状授与は、長年にわたる当校の外国人技能実習生に対する防犯講習や、実習生の皆さんの地域の安心安全確保の為に啓発イベントへの参加等が、県内在住の外国人の防犯意識の高揚や、外国人組織犯罪の拡大抑制に大きく貢献していると評価されたものです。

今後とも日本語指導に止まらず、外国人実習生の皆さんが安心して、安全に暮らしていく上で必要と思われる知識や経験の積み重ねを、当校の入国後講習を通して推進していきたいと考えております。

今月の実習生

今月の実習生は年初の授業で大変素敵な絵馬を作成したベトナム人実習生の LE HUU HUYNH ANH (アイン) さんをご紹介します。

アインさんはとても几帳面な性格で、日頃から落ち着いた態度で日本語を話す実習生です。今回の「絵馬」の授業では、その几帳面さを活かし、とても丁寧に絵馬を作成しました。



自作の絵馬を手に笑顔のアインさん

きょうはにほんのうまのえまをべんぎょうしました。こといはうまでしてすからうまのえをかきました。とてもおもしろかったです。わたしのねがひはこゝろはかぞくがけんこうでわたしのN3にこゝろかくしますようにです。

あじけん流日本語授業

～会話テスト新基準について～

今月のアジ研流日本語授業は、番外編として、2025年4月に変更した新カリキュラムに合わせた、会話テストの新基準についてご説明いたします。新カリキュラムは、人間関係構築のためのコミュニケーションを重視しています。そのため、授業内容もコミュニケーション、つまり講師と実習生、実習生同士での会話を中心にしています。ですので、最終評価となる会話テストの基準も「コミュニケーションができるかどうか」を評価基準にいたしました。会話テストは、グループ形式で行います。以下が新しい基準となります。

S：語彙力、表現力ともに豊富で、自然な速度の日本語の問いかけを的確に理解し、複雑な質問等にも答えられる運用力が認められるレベル

A：コミュニケーション力があり、基本的な内容であれば自然な日本語の速度での問いかけに、しっかりと応答できるレベル

B：ある程度のコミュニケーション力があるが、時々手助けが必要と感じるレベル

C：ゆっくり話された基本的な内容の質問であれば何とか応じることが出来るが、日常のやり取りの中では手助けの必要性を感じることが多いレベル

D：ゆっくり発話された日本語であっても応答することが出来ず、質問や指示に全く応答できないレベル

5段階評価となり、当校実習生は「A」レベルを目指していくことになります。特に重視したいのは、「わからないことはわからないと伝え、聞き返しなどをすることができる」「相手の話にあわせて、反応、返事、返答をすることができる」です。感じがいいコミュニケーションの基本として、相手の話を聞いているということを示す、またそれについて何かしらの反応をするということが必要だと考えています。新基準の適用は、1月来日の実習生からとなります。

なお、レベルチェックテストの会話テストは、今まで通り、

1対1で行う予定です。レベルチェックテストの段階では、

まず、母国での学習が身についているかどうか、基本的な受け答えができるかどうかを確認したいためです。名前や会社名、いつ、どこなどの疑問詞の定着、日付や時間の定着を確認します。その他、基本的な動詞を使った質問に答えられるかどうか、日本語が聞き取れるか等をレベルチェックテストでは確認していきます。そのうえで、感じがいいコミュニケーションができるかも確認します。この部分については、着実に定着させられるように重点的に指導していきます。



写真：実習生同士になると笑顔も見られます



写真：男女、監理団体もバラバラです

実習先の同僚、上司の方とのコミュニケーションがいかにかで、実習生の日本での生活の感じ方が変わってくると思っています。

また、実習先の日本人の方にとってもコミュニケーションがうまくいくかどうかで実習生への見方が変わってくると思います。相互が「よかった」と思えるようなコミュニケーションづくりの基礎となる日本語を、今年もしっかりと研究し、実習生に提供したいと考えております。2026年も当校の日本語指導へのご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。